

日本アイスフラワーアカデミーが誕生！生徒を募集中です

2008年4月に、アイスフラワーの基本的な取り扱いから、本格的な作品の制作実習までみっちり学ぶことができます。ご希望のアカデミーが誕生しました。現在、ベーシックコースと認定講師の資格取得を目指すマスターコースを一貫して受講できる、3日間の短期集中コースを特別に開講。最終日はKAORUKOさんが講義を担当。5月、6月、7月は以下の日程で受け付けております。

講義についての問い合わせ
日本アイスフラワーアカデミー
電話 / 0120-087-942
教室 / デイズ (松尾太一さんのアトリエ)
東京都港区東新橋2-18-2
グラデイト沙留ビアンコ1階
電話 / 03-3459-8787
交通 / JR新橋駅下車徒歩5分
5月の講義 / 5月12日-14日
6月の講義 / 6月27日-29日
7月の講義 / 7月24日-26日
認定講師資格 / 取得されたかたは認定教室開室のため、アカデミーが全面的にバックアップします。

アイスフラワーのご購入とお問い合わせ先

アイスフラワーはベルギーの唯一の農場から直接入荷されます。約30種類のバラはもとより、ガーベラ、カーネーションなど、しなやかな風合いや色合いが何カ月も保たれます。もちろん、その花の一番美しい時期に揃いますから、一年中すべての種類が揃っているわけではありません。数量に限りがありますので、購入ご希望のかたはもちろん、詳細は以下にお問い合わせください。

問い合わせ
株式会社テンマック
ホームページ / <http://www.iceflower.jp>
電話 / 03-5298-3831

KAORUKO

かおるこ / [KAORUKO] 主宰。ブライダルフラワープロデューサー。桂由美ブライダルショーでブーケを長年にわたって担当し続け、国内外で活躍。オリジナルウェディングのトレンドやニーズに応えながら、人材育成にも力を入れている。



マーブル模様のバラもボルドー色の芍薬も、ほかにはないアイスフラワーだけの花材です。自然の花の色や風合いを残した2種の花を伸ばくこんもりと集めて、同様にアイスフラワーにしかない芍薬のつぼみで作った花のガーランドを、軽やかにリズム良く間に挿していきました。

●バラ (ラナンキュラ)、シャクヤク (ボルドー)、シャクヤク (スモールボタン)

シックな色合いのバラと芍薬のアレンジに、キュートに揺れるガーランドをプラスして



アイスフラワーにしかない花材を使って、ナチュラルな色や風合いの作品を制作しましょう

新しい花アイスフラワーは、自然の花を瞬間的にフリーズドライしたもので、その風合いや色合いを長く楽しむことが可能になりました。その過程で本来の花の水分が水となり昇華されることから、アイスフラワーという名前がつけられたのです。第一の魅力は、特殊な加工や着色を一切していないので、ドライでありながら生花に近い風合いや色合いを留めていること。第二の魅力は、その多彩な種類。花首のみの花だけではなく、短い茎や葉がついたバラ、長い茎のついたスプレーバラや睡蓮、芍薬のつぼみ、大輪の睡蓮や芍薬と、楽しむ姿の花が登場しています。

生花と同じように、アイスフラワーも優しく、ていねいに扱ってください。保管はワインと同じ環境の温度(18~20℃)がベストだといわれています。特殊な加工や着色を一切していません。過度の乾燥も、逆に梅雨どきなどの多湿もよくありません。ある意味呼吸して、それが生花に近いナチュラル感につながっているのです。直射日光の当たらない場所で保管しましょう。今回基本のテクニクとしてご紹介したように、花びらを補強したりワイヤリングすることで、花はぐつと強くなりますから、完成後はどんな場所に置いても大丈夫。どうぞ身近で、長く楽しんでください。

次号はアイスフラワーの可能性を広げる、高度なテクニックの作品をご紹介します。

短いワイヤーを使って、基本のレッスン



step 1 小さな芍薬のつぼみの中心にワイヤーを貫通させてから、ワイヤーの先端を短くフック状に曲げて花にかけます。花びらを傷つけないようにていねいに刺して。



step 2 すべてのつぼみを同じようにフックの方法でワイヤリングし、ワイヤーの部分を花の色に合わせてピンクのフロールテープでテーピングしていきます。



step 3 ふたつのつぼみをつないでガーランド(花づな)を作ります。つぼみが揺れるように長さにリズムをつけながら、途中でピンクのフロールテープでつなげて。



step 4 ボルドー色の芍薬とバラも、同じフックの手法でワイヤリングし、テーピングします。器に入れたドライ用スポンジに色のバランスを見ながら挿します。



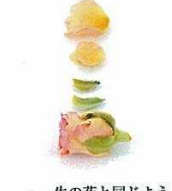
step 5 ワイヤリングした柔らかいリボンをつまみ、最後に芍薬のつぼみのガーランドを入れて完成させます。いろいろな向きにつぼみが見えるような感じに。

アイスフラワーの基本の道具



アイスフラワーの場合も、ドライやプリザーブドの作品を制作する際に必要な道具と基本的には同じです。写真上はドライ用スポンジ。左よりワイヤー、はさみ2種、フロールテープ数色、グルーガン。アイスフラワーは軽く繊細なので、通常、花材に応じてワイヤーは細い30番から太い24番まで繊細に使い分けします。また、アイスフラワーならではの自然の花色のニュアンスを壊さないよう、フロールテープはいろいろな色を用意して。

花びらの取り扱いの基本。ていねいに補強します



step 1 生の花と同じように、アイスフラワーは自然のものがくもついているので、外側の花びらの順にそっと外していきます。割れないようにていねいに。



step 2 熱にも強いので、ほかのドライやプリザーブドの花材と同じようにグルーガンが使えます。出しすぎないように、花の根元の周囲に薄くグルーをつけて。



step 3 外しておいた花びらとがくの順番を守りながら、グルーの部分に1枚ずつ花びらを戻して、元のバラを作り直します。このひと手間で、丈夫に補強されます。



スプレーバラ



バラ(ブラックバカラ)



ガーベラ(マーキュリー)

個性豊かな種類が多彩に揃いました。自然な花の姿を留めたアイスフラワー



芍薬(ボルドー)



ミニバラ(パーティー)



バラ(ラナンキュラ)



カーネーション(レッドスポットド)



芍薬(ベタル)



芍薬(スモールボタン)

花の新しい可能性。新しいアイスフラワー。第二回

アイスフラワーは、切りたての花の美しい瞬間を閉じ込め、自然な風合いと繊細な色合いをそのまま留めたフリーズドライの花。バラ、芍薬、睡蓮、ガーベラ...など、ほかにはない花材が数多く揃っています。今回はその個性豊かな花材を使って、取り扱いやアレンジの基本を学びます。どこよりも早い、アイスフラワーの魅力をレッスンです。

花 / KAORUKO 撮影 / 粟林成城 構成と文 / 近藤小桃